

シナリオ	区分	ドライバー	想定状況 (2050年)	ビジネスインパクト	リスクと機会 (中長期)	当社グループのアプローチ: 「2030年のありたい姿」に向けた取り組み
1.5°C	気候変動政策	カーボンプライシング (炭素税、排出量取引など)	・全体的な金額の上昇 (国や地域による)	税負担などの増加 低炭素化設備投資・研究開発費の増加	リスク 大 リスク 短期～長期 大	・気候変動「GHG排出量の削減」 ・気候変動「GHG排出量の削減」 ・非鉄金属資源の有効活用 「新技術導入による生産性改善」、「ニッケル鉱プロジェクトの推進と生産性の改善」
	気候変動政策	自動車規制の強化、低排ガス車 (LEVs) 促進政策	・燃費規制強化、移動規制導入 ・電気自動車 (EV) や LEVs への政策的支援 ・内燃車は LEVs に置換	EVの普及に伴う電池・ニッケル需要の拡大による売り上げ増加		・気候変動「GHG排出量の削減」 ・非鉄金属資源の有効活用
	社会・インフラ	自動車関連DXの進展、価値観の変化	・自動運転、MaaS、カーシェアリングの普及 ・自家用車の減少	・水素社会、FCVの普及による酸化ニッケル粉、リチウムイオン電池の売り上げ増加 ・その他の低炭素負荷製品の売り上げ増加	機会 大	「ニッケル鉱プロジェクトの推進と生産性の改善」、「未利用非鉄金属資源の有効化技術の開発」、「自社の強みを活かし社会に貢献する新製品・新事業の創出」、「自社原料保有による有利・安定調達」、「有利な自社ニッケル原料の安定調達による、低コスト電池正極材の販売拡大」
	技術	水素利用技術、燃料電池	・燃料電池自動車 (FCV) の普及 ・EV、プラグインハイブリッド自動車 (PHEV) の普及			
	気候変動政策	エネルギーの電力へのシフト	・最終エネルギー消費に占める電力比率の増加	・送電網の強化に伴う銅需要の増加 (アルミニウムなどとの競合あり)	機会 大	・非鉄金属資源の有効活用 「銅鉱山プロジェクトの推進」、「新規優良銅金資源の獲得」
	技術	車載用蓄電池の技術シフト	・車載用蓄電池の市場シェアのシフト	・コバルトフリーに伴う、ニッケル比率の上昇とニッケルの売り上げ増加 ・次世代電池として当社の技術が活かせる全固体電池が普及 ・コバルトフリーに伴い、鉄・マンガン系電池が普及 ・次世代電池として当社の技術が活かさない新しい電池が普及	機会 中 リスク 中	・気候変動「GHG排出量の削減」 ・非鉄金属資源の有効活用 「ニッケル鉱プロジェクトの推進と生産性の改善」、「未利用非鉄金属資源の有効化技術の開発」、「自社の強みを活かし社会に貢献する新製品・新事業の創出」、「自社原料保有による有利・安定調達」、「有利な自社ニッケル原料の安定調達による、低コスト電池正極材の販売拡大」
社会・インフラ	Sustainable Procurement、環境フットプリント、事業の社会的インパクトなどへの関心	・持続可能性に対する意識向上 ・ESG投資の主流化 ・代替材料やリサイクル金属の利用の可能性拡大	・原料確保の制約、原料コストや製造コストの上昇、自山鉱のメリット拡大 ・車載二次電池のリサイクル事業の拡大 ・ESG投資によるファイナンスへの影響 ・当社取り組みが不十分と評価される場合のレピュテーションリスク	機会 中 リスク 中～大	・非鉄金属資源の有効活用 「銅鉱山プロジェクトの推進」、「新規優良銅金資源の獲得」、「ニッケル鉱プロジェクトの推進と生産性の改善」、「自社原料保有による有利・安定調達」、「車載二次電池リサイクル技術の実証と事業化」 ・サプライチェーンにおける人権 「サステナビリティ調達、特に責任ある鉱物調達の推進」 ・先住民の権利 「先住民や先住民の伝統と文化の理解」、「先住民の伝統と文化の尊重につながる取り組みへの支援」	
4°C	気温・降雨	平均気温・海水温・海面水位の上昇 熱波、洪水、水不足などの異常気象の増加	・海面上昇 ・高潮発生頻度の増加	港湾機能の低下や高潮のリスクが上昇し、沿岸部の一部の事業場で設備的対策を要する可能性	リスク 大	・重大環境事故・生物多様性「重大環境事故 ゼロ」
			・大雨、台風の頻度増加 ・地域によっては洪水や水不足リスクの増加	一部地域の事業場で洪水や水不足のリスクが増大し、設備的対策を要する可能性	リスク 大	・重大環境事故・生物多様性「重大環境事故 ゼロ」
				キーサプライヤーの操業低下、調達・出荷ルート途絶による工場操業低下	リスク 大	・重大環境事故・生物多様性 「重大環境事故 ゼロ」、「有害物質排出量低減」
				尾鉱ダム損壊リスクの上昇に伴う設備的対策を要する可能性	リスク 大	・重大環境事故「重大環境事故 ゼロ」